

庄川水記念公園再整備に関する意見書（案）

1 庄川水記念公園再整備の目的

庄川水記念公園は、整備が行われてから30年以上が経過し、施設の老朽化や機能不全が目立ってきている。

また、砺波市では、令和2年3月に策定した「砺波市公共施設再編計画」に基づき、公共施設の適正配置を進めており、庄川水記念公園内の、「松村外次郎記念庄川美術館」と「庄川水資料館」を廃止し、撤去を進めている。

そこで、廃止した施設の跡地を含め、安全に安心して水に親しむことができる公園として再整備を行い、公園利用者の満足度の向上と、通年利用やイベント利用の拡大を図る。

2 庄川水記念公園の現状

(1) 沿革

旧庄川町では、観光の一大拠点をつくることが町の悲願であり、その実現に向け、昭和55年(1980年)に福井工業大学山崎泰孝教授(当時)を中心とした計画設計チーム、地元有志で構成する「庄川町夢を語る会」と庄川町職員プロジェクトチームが、「庄川町水記念公園基本構想」を策定した。

翌年からは公園の整備に着手し、庄川特産館や大噴水、木製水車(既に除去)などが順次整備され、昭和61年に第一次開園となった。

その後も松村外次郎記念庄川美術館、庄川水資料館、庄川ウッドプラザなどが順次整備されている。

公園の概要

○全体面積/7.8ha(うち都市公園面積5.6ha)

○主要施設/庄川特産館、庄川ふれあいプラザ、庄川ウッドプラザ、庄川水資料館(廃止)、松村外次郎記念庄川美術館(廃止)、大噴水、ちびっ子広場、鯉恋の宮など

(2) 現状と課題

ア 水との関わり、文化を発信する拠点として

- ・庄川水資料館の廃止により、資料展示などの機能を補う必要がある。
- ・水と親しむための施設であるが、河川水を利用していることから衛生面に課題が残る。
- ・親水施設の老朽化や壁泉などは維持管理の頻雑さから、機能不全や美観を損ねている面もあり、更新や廃止の対応が必要である。

イ 観光拠点として

- ・温泉施設に多くの来客があるが、公園に足を運ぶ人は少ない。
- ・イベント開催時などにおいては、駐車場が不足している状況である。
- ・イベント会場として利用されるが、魅力的なコンテンツ不足であり、リピーターが限定的である。

ウ 公園内施設について

(ア) 園路

- ・公園内の動線は階段が多く、路面も凸凹していることから、バリアフリーやユニバーサルデザインを取り入れて整備する必要がある。

(イ) 照明施設

- ・公園内に照明が少なく、夜間など防犯上危険であることから、整備する必要がある。

(ウ) 案内サイン

- ・公園内の施設配置等が分かりにくいなか、サインも少なく統一性がないことから、分かりやすく統一されたサインが必要である。

(エ) 公園周辺の市道

- ・水記念公園線が公園を分断していることから、安全に安心して東西を行き来できるよう、歩行者と車両の共存を図る必要がある。
- ・金屋28号線が狭く分かりにくいことから、西側駐車場の利用が少なく、道路の拡幅などにより誘導する必要がある。

(オ) その他

- ・水力発電施設が故障しており、修理や撤去の検討が必要である。
- ・電柱や電線が眺望を台無しにしており、目隠しや埋設するなど修景に配慮した設備とする必要がある。

3 公園再整備の方針

(1) 基本理念

ア 公園の役割

庄川水記念公園の再整備において求める役割は、次の5項目とする。

① 自然・環境	・ 庄川の雄大な景観や自然環境にふれあえる ・ 四季折々の花や緑が楽しめる ・ 安らぎを覚え、のんびりできる	修景・親水の空間 花や緑の鑑賞空間 癒やしの空間
② 歴史・文化	・ 庄川が育んできた歴史や芸術を学べる ・ 庄川地域の伝統技術や文化を理解できる	歴史・芸術の空間 伝統文化の空間
③ レクリエーション	・ 憩いのスポットでくつろげる ・ 来園者が思い思いに心と体の健康増進を図る ・ 子供たちが楽しく安全に安心して遊べる ・ イベント参加者が非日常を楽しめる	レクリエーションの空間 健康増進の空間 遊びの空間 人との交流の空間
④ 観 光	・ 庄川の豊かな水の魅力を感じられる ・ 飲食や物販などでにぎわい、交流が生まれる	魅力を体感する空間 にぎわいの空間
⑤ 防 災	・ 災害時に地域住民が一次避難できる	避難する空間

イ 整備目標 ～公園が目指す方向性～

水に親しみ、時を忘れて特別な日常を楽しむ

庄川の美しい自然景観と地域の文化を未来へつなぎ、水から生まれた風土を育むとともに、観光・交流の拠点としてにぎわい、水に親しんで楽しめる公園を目指します。

ウ 整備方針 ～目標達成に向けた公園づくりの考え方～

テーマ：TSUNAGERU（つなげる）

- (ア) 庄川の豊かな水と美しい景観を世界につなげる公園
- (イ) 庄川とともに暮らし育んだ歴史・文化を未来につなげる公園
- (ウ) 幅広い世代が思い思いに楽しめる時代をつなげる公園
- (エ) 観光・交流の拠点としてにぎわい、市民と来訪者のくらしをつなげる公園
- (オ) 公園全体の一体感を生み出し、周辺施設との空間をつなげる公園

(2) 具体的な方策 ～目標達成に向けた具体的な手段・方法～

ア 庄川の豊かな水と美しい景観を世界につなげる公園

(ア) 庄川の豊かな水の活用

水と親しむ空間や庄川の流れを眺望できる休憩施設、散策路を整備するなど、豊かな水の持つエネルギーを実感できる空間とする。

(イ) 山々の自然景観の活用

庄川を挟んだ対岸の山々を眺望できるポイントを整備し、周辺の自然景観を生かした自然の持つ癒やしを感じられる空間とする。

イ 庄川とともに暮らし育んだ歴史・文化を未来につなげる公園

(ア) 庄川水資料館の機能の継承

庄川の水とともに暮らしてきた歴史について、学べる空間を設ける。

(イ) 松村外次郎記念庄川美術館の機能の継承

美術作品を後世へつなげられるよう、鑑賞できる空間を設ける。

(ウ) 伝統工芸品や特産品の継承

庄川挽物木地等の特産品や地場産品を使った飲食店や販売所を設置するなど、庄川らしさの継承拠点とし、市内外へ発信していく空間とする。

ウ 幅広い世代が思い思いに楽しめる時代をつなげる公園

(ア) 遊びを学びあえる公園

遊具、水遊び場、芝生広場などを整備し、幅広い世代が楽しく遊ぶことができる空間とする。

(イ) にぎわいを楽しめる公園

魅力的な飲食の出店やにぎわいのあるイベントができるスペース、グループ等で様々なレクリエーションを楽しめる施設を整備し、幅広い世代が集まる空間とする。

(ウ) 健康づくりとなる公園

ウォーキングのできる園路の整備など、健康増進に寄与する施設とする。

また、自然の移り変わりをゆったりと感じられる空間とする。

(エ) 世代間がつながる公園

イベント、軽スポーツなどを通して世代間の交流を深められる空間とする。

エ 観光・交流の拠点としてにぎわい、市民と来訪者のくらしをつなげる公園

(ア) にぎわいの創出につながる施設

飲食・物販の充実により集客力を高め、年間を通してにぎわう空間とする。

(イ) 市内外から多くの方が訪れる空間

桜の名所、庄川の眺望点、水辺のライトアップなど、市内外からも多くの人が訪れたくなる、魅力溢れる空間とする。

(ウ) 特長を生かした空間

温泉を活用した施設や水辺でのアクティビティなど、庄川の特長を生かした空間とする。

オ 公園全体の一体感を生み出し、周辺施設との空間をつなげる公園

(ア) ユニバーサルデザインの公園

園路や施設のバリアフリー化などを進め、ユニバーサルデザインにより誰もが利用しやすい公園とする。

(イ) 連続性や物語性のある公園

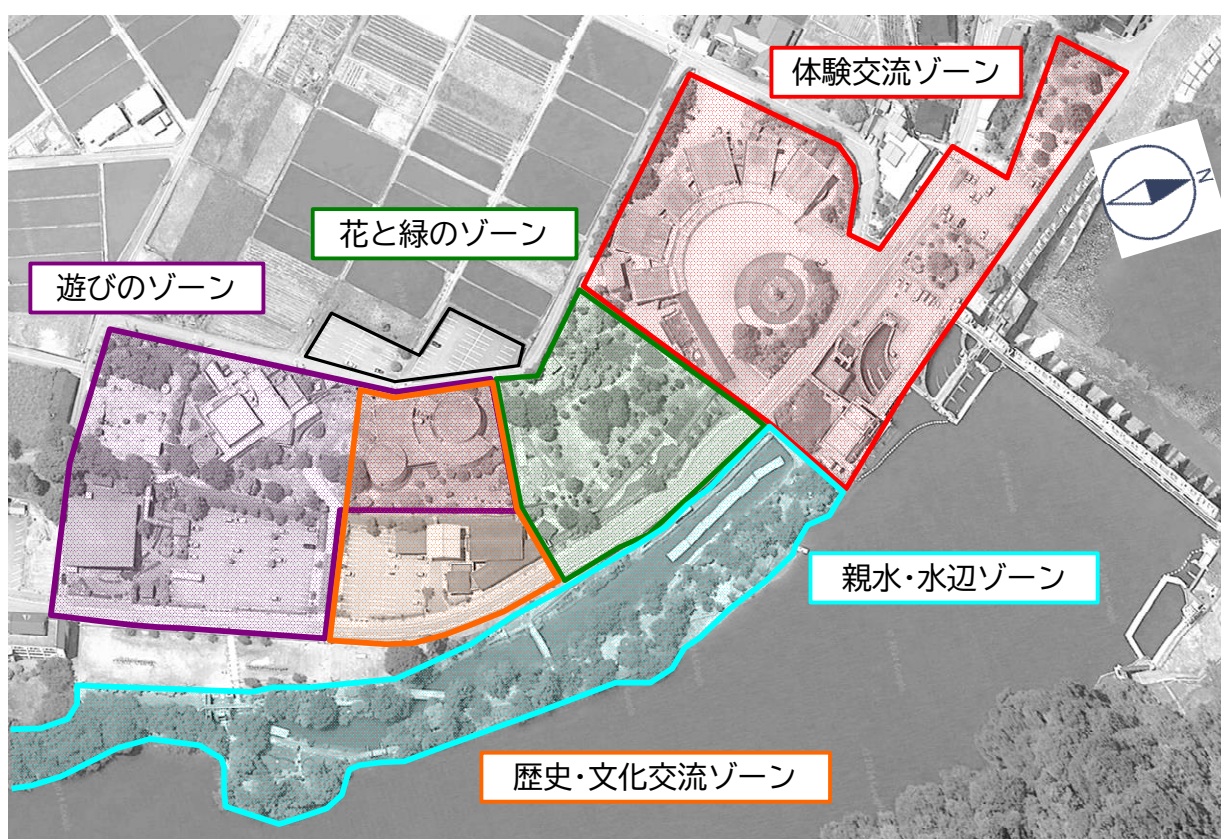
樹木の間伐や動線を整理し、公園全体の一体感を生み出す。

(ウ) 周辺施設との連携

地域全体が活性化するよう、周辺の公共施設や民間施設との連携や統一感を創出する。

4 公園再整備に対する意見

(1) 公園内のゾーニング



(2) ゾーニングごとの整備方針と主な整備内容

ア 体験交流ゾーン

<整備方針>

- ・ 庄川の景観を生かした体験拠点の創出やイベントなどにより、賑わいと交流が生まれる空間

<主な整備内容>

- ・ 庄川特産館のリニューアル（アクティビティの窓口、貸しスペース、トイレ、飲食店などの設置）
- ・ バーベキュー場の設置
- ・ RVパーク（車中泊用駐車スペース）の設置
- ・ イベント時に活用できる駐車場の設置（大噴水の機能移転、高低差を活用した大階段）

イ 花と緑のゾーン

<整備方針>

- ・ 木漏れ日の中でゆっくりと芸術に触れ、読書や散策を楽しむことができる空間

<主な整備内容>

- ・ 散策路の設置
- ・ 美術作品の設置
- ・ 休憩施設の設置

ウ 歴史・文化交流ゾーン

<整備方針>

- ・ ゆったりと潤いを感じながら過ごし、世代・地域間交流が深まり、気軽に学ぶことができる空間

<主な整備内容>

- ・ 庄川ふれあいプラザのリニューアル（水資料の展示、図書スペース、カフェ、物販などの設置）
- ・ 芝生広場の設置<ゾーン共有部>
- ・ 水を生かしたシンボル(目玉施設)の設置<ゾーン共有部>
- ・ 庄川ウッドプラザと庄川ふれあいプラザとの動線の確保<ゾーン共有部>
- ・ 民間活力による飲食店など誘致の検討<ゾーン共有部>

エ 遊びのゾーン

<整備方針>

- ・ 家族が見守る中で子供が安全に安心して遊べる空間

<主な整備内容>

- ・ 庄川ウッドプラザのリニューアル（屋内遊具の設置、軽食施設などの設置）
- ・ 地形を生かした遊具の設置
- ・ 親水施設の設置
- ・ 民間活力によるグランピング施設の検討
- ・ 庄川ウッドプラザと庄川ふれあいプラザとの動線の確保<ゾーン共有部>
- ・ 芝生広場の設置<ゾーン共有部>
- ・ 水を生かしたシンボル(目玉施設)の設置<ゾーン共有部>
- ・ 民間活力による飲食店など誘致の検討<ゾーン共有部>

オ 親水・水辺ゾーン

<整備方針>

- ・ 庄川を活用しアクティビティに水と親しめる空間
- ・ 季節を肌で感じながら、心に潤いを与える空間

<主な整備内容>

- ・ 遊歩道の再整備
- ・ 休憩施設の再整備

(3) その他機能別の整備方針

ア 園路

- ・ 利用しやすい動線の確保
- ・ ユニバーサルデザインやバリアフリーを取り入れた安全性の確保

イ 水路

- ・ 既存の池などを活用しながら、連続性を確保した水辺の整備
- ・ 庄川特産館近くの壁泉・鯉池は公園全体の連続性(遊歩道等)の確保のため撤去
- ・ 庄川ふれあいプラザ北側の親水広場は施設老朽化に伴い撤去
- ・ 親水施設においては、衛生面を考慮した整備

ウ 照明施設

- ・防犯機能の充実のための夜間照明の設置
- ・散策のためのライトアップなど修景照明の設置

エ サイン施設

- ・分かりやすく統一されたサイン計画

オ 公園周辺の市道

- ・水記念公園線を歩車共存道路として整備
- ・西側駐車場への誘導のため金屋28号線の拡幅

カ その他

- ・再生可能エネルギーシステム導入の検討
- ・防災機能の確保（広場の設置、園内の放送設備など）
- ・修景に配慮した電柱や電線の整備を検討（管理者への働きかけ）

（４）再整備にあたっての留意点

ア 再整備計画について

本意見書は基本的な考え方をまとめたものであり、事業実施に際しては関係法令や基準などに基づき設計を行い、実現可能な整備をしていく必要がある。

イ 再整備の実施について

整備内容が多岐にわたることから、事業実施に際しては優先順位を定め、適切な資金計画による建設年次計画を立て、着実に実施していく必要がある。

ウ 将来に向けての方策

大噴水の機能を移転するにあたり、モニュメントを残すこととし、撤去時期は再整備の進捗状況に応じ、慎重に検討していく必要がある。